【クラブ活動報告】

ネパール支援14年間を振り返って

橋本ロータリークラブ
国際奉仕委員長 喜多 啓允

コロナ禍で行けなかったネパールに昨年、11月6日から14日まで、4年振りに訪問しました。今回の目的は昨年度サニアマライ村を中心に76軒に支援したバイオガストイレ設置の状況を見学。また5～6年前から要望されていたジャナウジョル小学校の3教室増設の現地調査を行いました。

2010年から始めた学校建設支援は、パシュパティ小学校、バランディ小学校、シリジャナ初等中学校、プラバット高等中学校、ジャナディープ高等中学校、パシュパティ小学校2階増設、そして今回支援するジャナウジョル小学校で7校となり、バイオガストイレは159軒になりました。

バイオガストイレ装置は人や家畜の排泄物を地下タンクに貯め、メタンガスを発酵させ調理用ガスとして利用します。これにより女性や子供達が薪取りの重労働から解放され、上澄み液は野菜つくりに有用な液肥となり喜ばれ、さらにご婦人方にとってありがたいことは不意の客人に対してもすぐに軽食やお茶の接待が出来ると喜んでいました。また薪の燃焼ガスがそのまま家に充満し呼吸器疾患を引き起こす原因となり幼児の死亡率が高く問題視されており、同時に薪の使用が従来の半分以下になることで森林破壊も軽減されることでネパール政府も補助金を出し推奨しています。

学校建設支援は識字率向上の為取り組んでいますが、最近私たちクラブが支援しているパルパ地方の生徒が減少しています。原因は外国への出稼ぎで農業より稼ぎが多い為都会に引越しする人が増え耕作放棄地も増えています。残念な現象ですが基幹産業の乏しいネパールでは、働き盛りの5人に1人が外国への出稼ぎで生計を立てているのが現状です。しかしながら老朽化した教室や足りない教室はまだまだあるので建設支援は必要です。

橋本RCがネパールに支援を始めて14年になりますがインフラは訪問するたび発展していつも利用するカトマンズのトリブヴァン国際空港は改修され滑走路も拡張工事が進んで近代化されてきました。またポカラ国際空港は別の場所にバイラワ国際空港は現空港の隣に空港ビルが建ち近代的な空港に何れも中国資本で建設されましたが、名ばかりの国際空港で国際便は1便も運航されていません採算面で将来性が心配されます。

また、2015年ネパール地震で甚大な被害を受けましたが殆んど復興され、地震以前見なかった重機（ブルトーザー、ユンボ等）が世界中から送られ田舎でも見かけます。そのため道つくり等、効率は良くなりましたが田舎では人手を必要とする現金収入が減り今までのようなのどかな環境から現金収入を求め変わりつつあるかも知れません。 当初から識字率向上で取り組んできた支援ですが、村民のニーズまたネパールの社会環境の変化から求められる支援も多様化しております、よく考え実りのある支援になればと考えています。